

## 令和5年度学校評価自己評価書（2学期）

### 1 学校の重点目標

○ 学習習慣の確立と確かな学力の定着
○ 心の教育、心の届く生徒指導の充実
○ たくましい体力・気力づくりと健康・安全教育の充実
○ 教職員の資質指導力の向上
○ 業務改善、働き方改革の推進
○ 家庭・地域との連携、学校間の連携
○ 校舎建て替えに伴う環境整備

### 2 課題と改善策職員評価（4よく達成3ほぼ達成2あまり達成なし1ほとんど達成なし）

	評価項目	職員	改善方策
確かな学力の定着	1 休み時間の学習準備の徹底、授業中の姿勢・挙手・鉛筆の握り方等の指導	2.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級活動での指導徹底と定期的な見届け、繰り返し指導を行う。</li> <li>定着度の低い児童に対しては、授業ラスト10分の定着の時間や、朝活動のチャレンジタイム25分の中で個別指導を行う。</li> <li>外国語担当者が中心となり、クラスルームイングリッシュの活用の仕方を共通理解する。</li> <li>児童作品や調べ学習の成果物等を定期的に張替え、教育環境の充実に努める。</li> </ul>
	2 「めあて」と「まとめ」の板書、定着の時間の設定と個に応じた指導	2.7	
	3 外国語活動や外国語科で使うクラスルームイングリッシュの活用	2.1	
	4 月毎の学級設営の張替えや黒板へのメッセージ記入の実施	2.6	
豊かな心の育成	1 学年の発達段階に即した、返事指導の徹底	3.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康観察時や授業中の指名等を行う際に、声量や挙手の仕方について具体的に指導する。</li> <li>遅刻等の現状を保護者会で伝え、改善策について話し合う時間を設定する。</li> <li>2学期に全校一斉道徳授業参観を実施し、家庭と連携して道徳教育の充実を図る。</li> <li>帰りの会等での称賛や、特活ノートを活用した見届けと称賛を行うようにする。</li> </ul>
	2 遅刻0や月毎の生活目標の達成状況を児童と共に評価、改善	2.6	
	3 授業参観での道徳授業実施や週報での啓発等、家庭と連携した道徳性の育成	3.1	
	4 清掃活動、緑化活動等に進んで取り組む児童を月1回以上称賛する機会の設定	2.8	
たくましい体力・気力	1 体育の授業における絵図、ICT、小黒板、副読本等の活用	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットを活用して相互に動画を撮影するなど運動技能の向上を図れるようにする。</li> <li>なわ跳びチャレンジカードを活用して、めあてをもって技能跳び等に取り組みさせる。</li> <li>学期末の学級活動で、運動面のめあての振り返りを充実させる。</li> <li>基本的な生活習慣の確立の一環として、児童と保護者に徒歩登校の大切さを伝える。</li> </ul>
	2 一校一運動やマイスポーツ(チョトレ)、「チャレンジかごしま」への取組	2.5	
	3 学期ごとに目標等をもたせ、達成状況を児童が自己評価する機会の設定	2.7	
	4 徒歩登校を推奨し、児童の自己評価で90%以上の達成を目標に設定	3.2	
信頼される学校	1 保護者会、授業参観、学校保健委員会等への出席率90%以上を目指した働き掛け	2.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども応援隊と連携して保護者会の内容充実を図り、学級課題解決を推進する。</li> <li>幼保小連絡会、小中連携研修会等を充実させ、共通実践事項等の取組を充実させる。</li> <li>市教委等と連携した講師招聘や地域ボランティアの活用を推進する。</li> <li>校内研修での共通理解を基に、研修受講を推進し、定期的に研修履歴の記録を呼び掛ける。</li> </ul>
	2 幼保、小中の連携を図る具体的な指導の実施	2.8	
	3 食育、健康教育、キャリア教育等に外部講師(地域ボランティア)等を活用	3.1	
	4 県教員等育成指標を踏まえた研修の実施と研修履歴の記録	2.8	

### 3 次学期に向けての取組

- 校内での共通理解を基に、確かな学力の定着や豊かな心の育成、たくましい体力・気力づくりを推進できるようにする。
- 教育活動の充実のために、家庭・地域と連携した取組の充実を図る。